

命を守る決意を新たに 3年ぶりに屋外で消防出初め式を実施



式を締めくくる消防団の一斉放水

消防隊員らの士気と市民の皆さんの防火意識を高めるため、荻野運動公園で消防出初め式を開催しました。式は、式典・表彰と消防演技の2部構成。消防演技は3年ぶりに屋外で実施され、消防職員や団員などが、消防車両の分列行進やはしご乗り、一斉放水などを披露し、多くの観客が見入っていました。

親子で来ていた小寺裕一さん(35・林)は「出初め式に来たのは初めて。地域に貢献する消防団を知ることになった」と話し、息子の悠斗さん(5)は「消防車がかっこよかった。大きくなったら消防士になりたい」と喜んでいました。



「拓」可能性は無限大！ はたちのつどいを開催

20歳の節目を祝う「はたちのつどい」が文化会館で開催され、着物やスーツに身を包んだ若者たちは、晴れやかな表情で同級生との再会を喜んでいました。式典は、20歳を迎える若者でつくる実行委員会が昨年7月から企画。感染拡大防止のため、昨年に続き中学校区別に3回に分けて実施しました。



2320人が20歳の節目を迎えた

平和への思いを込めて

森の里朝市でウクライナ支援の募金活動を実施

若宮公園で開かれている森の里朝市で、ウクライナ支援の募金活動が実施されました。募金は、森の里朝市運営委員会の発案で始まり、今回で3回目。参加者たちは「ウクライナ人道危機支援金」と書かれた箱を持ち、買い物客らに募金を呼び掛けました。参加したウクライナ避難民のミコラエヌコさん(34)は「募金に協力してくれる人がたくさんいて、とても良かった。ウクライナでは電気が止まっている場所が多くある。その復旧などに使われてほしい」と話しました。



募金を呼び掛けるニキチェンコさんとミコラエヌコさん(左)

長年にわたり造園業に尽力

「現代の名工」に選ばれた職人が市長を表敬訪問

小林市長は「これからも職人の励みとなるよう仕事を続けていたいただきたい」と激励。神崎さんは「20代前半でこの仕事に就き、さまざまな庭を手掛け、心から楽しい職業だと感じている。今後もお客さんに喜んでいただける庭を造っていききたい」と力を込めました。



「名誉ある賞を受賞できてうれしい」と笑顔で話す神崎さん

卓越した技能でその道の第一人者として活躍する職人らを表彰する「現代の名工」に、温水在住の神崎勝彦さん(77)が選ばれ、市長に喜びを報告しました。

神崎さんは、日本古来の伝統的技法を生かした作庭を得意とし、50年以上にわたり若手造園技術者の人材育成と技能・知識の承継に尽力してきました。

第16回 みんなで! SDGs

SDGs(持続可能な開発目標)の実現のために設定された17の目標を知り、できることから実践しませんか。

目標11 住み続けられるまちづくりを
世界各地で、避難や移住が必要となる大きな自然災害が増えています。誰もが安全に暮らし続けられる、災害に強いまちをつくっていきましょう。



できる取り組みは？

防災対策をする

災害に強いまちをつくるには、そこに住む人が災害の恐ろしさを理解し、防災意識を高めることが重要です。災害はいつ発生するか分かりません。飲用水や食料品を備蓄するなど、いざという時に備えましょう。



地域の活動に参加する

地域活動への参加も個人でできる取り組みの一つです。児童の登下校を見守るボランティアや清掃活動、まちを活性化するための祭りなどのコミュニティー活動に参加し、誰もが安心して暮らせるまちにしましょう。

企画政策課 ☎225-2450

「過ぎたるは猶、及ばざるが如し」。古代中国の思想家・孔子の言葉で、「やり過ぎることは、やり足りないことと同じように良くない」という意味です。昨年12月6日の市議会第6回会議。一般質問の答弁で、4期16年にわたる市政運営に終止符を打つ決意を表明しました。

市長就任時、「3期・12年で目指すべきまちづくりを完結させる」と宣言しました。多選自粛に関する条

ひとまち 元気

小林市長



最後の消防出初め式であいさつ

例も制定しましたが、仕事を進めるうちにまちづくりの甘くない現実に向かい、「総仕上げ」に向けた強い思いで、条例の努力規定を超えた4年間を歩んできました。新型コロナウイルスに翻弄され、やりたいことが全てできずとは言い切れない日々でしたが、まちづくりに終わりはありません。持続可能なまちづくりに向けて確かな礎を築けたと確信できている今、新たなリーダーにバトンを渡すべきと判断しました。

厚木市を「日本一のまち」にするという私の夢は、新しいリーダーに託します。市長選挙は2月12日。このまちの将来のため、皆さん一人一人が「自分事」として一票を投じることを期待しています。